JTB 広域代表からのメッセージ

持続的な発展へ

ＪＴＢ協定旅館ホテル連盟の設立70周年、通常総会の開催に向け、ＪＴＢの国内仕入商品事業部長、広域代表の皆さまに、宿泊増売や地域誘客への考え、管轄地域の特色や魅力、今年度のトピックス、そして今後の取り組みの方向性についてご寄稿いただいた。

※東日本エリア広域代表については、山田仁二氏のインタビュー（14面）をご参照ください。

「国内仕入商品事業部」が今年4月発足

交流創造、地域誘客、地域連携
地域の価値をお客さまに届ける

執行役員 ツーリズム事業本部 国内旅行戦略担当 国内仕入商品事業部長 **山口 剛志氏**

旅行市場は、物価上昇や生活コスト増の影響を受けながらも、旅行需要は底堅く推移している。国内旅行者数は前年と比較し微増し需要を維持する一方、平均消費額は抑制傾向にあり、短期化や近距離志向といったコスト意識の高い行動が定着している。さらに訪日外国人の回復・拡大により宿泊需要は底上げされ、地域経済への波及効果も強まっている。こうした中、価格と満足度のバランスの追求や混雑の回避、特別な体験のニーズの高まりといったように旅の形や目的は大きく変わろうとしている。

そのような日々移ろうマーケットやAIの台頭といった環境に柔軟に対応するため、これまで国内・海外一体運営であった「仕入商品事業部」を分離させ、国内・海外それぞれの戦略を強化して、最適な情報・サービス・体験価値を提供するコンテンツの開発や、戦略方針として掲げたプライオリティ営業の高度化と協業パートナーとの連携強化を行う。

商品分野においては、お客さまのニーズに寄り添った付加価値商品（個人・団体）の拡充による競争優位性の向上と価格戦略の高度化を図っていくなど、さまざまな改革を徹底的に遂行していく。

われわれが目指す改革の先には、常に交流創造・地域誘客・地域連携がある。地域の価値をお客さまに届け続けることにより、地域の発展と、70年の節目を迎える旅ホ連会員施設への送客にサステナブルに寄与していきたい。

・特化させるために再編し、商品・コンテンツをタイムリーに提供していく。

仕入営業の領域においては、これまで推進してきた個人連携で磨きあげてきた専門性の集積ならびに「販売」「流通」「商品」を最適化し、カスタマージャーニーのあらゆるシーンにおいて、最適な情報・サービス・体験価値を提供するコンテンツをタイムリーに提供していく。

今年4月に新たに国内仕入商品事業部を立ち上げた。新組織においては、本部機能を兼ね備える国内仕入商品戦略部の旗振りの下、法の確立を図るとともに、新たに協業サイクルの戦術も打ち出す。戦術のモニタリングと磨き上げにより効果の最大を図る。また訪日インバウンドにおいても顧客にサステナブルに寄与していきたい。

北海道の魅力を発信

北海道

ツーリズム事業本部 北海道広域代表 兼北海道事業部長 **大川 正勝氏**

北海道の魅力は、一言では語り尽くせない奥行きと広がりを持っている。雄大な自然、四季折々に表情を変える景観、新鮮で豊かな食、そして地域ごとに育まれてきた文化や人の温かさ。これらが重なり合い、訪れる人々に特別な価値を提供している。

春は雪解けとともに大地が息吹き、夏は爽やかな気候のもとで大自然を満喫できる。秋には豊穣の実りが食と風景を彩り、冬は世界に誇る雪質と絶景が多くの人々をひきつける。この明確な季節の移ろいこそが、北海道観光の大きな魅力の一つである。

また、北海道は「食の宝庫」としての評価も高い。海の幸、山の幸、広大な大地で育った農産物はいずれも質が高く、地域ならではの食体験が旅行者の満足度を大きく高めている。

さらには、北海道の魅力は雄大な自然や食だけにとどまらない。例えば、知床ではガイドとともに原生林を歩きながらヒグマの生息域に触れ、阿寒ではアイヌ文化の物語とともに地域の歴史を体感できる。富良野・美瑛では丘陵風景の中を自転車で巡り、農家との交流を通じて大地の恵みを実感することもできる。さらに道東では、流氷の上を歩く体験や野生動物との出会いなど、他地域では得られない非日常の時間が広がる。

こうした自然・文化・暮らしが一体となった体験こそが、北海道の真の魅力である。単に「見る」観光ではなく、「関わり」「感じる」観光が、訪れる人の記憶に深く刻まれるのである。

北海道はこれからも進化し続ける。その魅力をより多くの人々に届けるとともに、地域とともに価値を創造していきたいと思う。

広域代表に聞く 2026年度事業

復興からその先の発展へ

東北

ツーリズム事業本部 東北エリア広域代表 兼仙台支店長 **濵田 正隆氏**

東北が誇る豊かな自然、深く根付いた文化、そして何より温かな「人」の魅力に触れ、改めて身が引き締まる思いである。観光の持つ「交流の力」を信じ、地域の皆さまとともに東北のプレゼンス向上に全力を尽くす決意だ。

現在、JTBグループが総力を挙げて展開しているのが、国内旅行キャンペーン「日本の旬 東北」である。コンセプトである「めぐる、つながる、東北 六彩の旅。」は、東北の真の魅力を深掘りし、旅行者の感性に響く「本物」の体験を提供することにある。単なる送客にとどまらず、地域の埋もれた資源に光を当て、高付加価値なコンテンツとして磨き上げることで、東北全域への周遊促進と滞在時間の延長を強力に推進していく。

この大きな目標を達成するには不可欠なのが、JTB協定旅館ホテル連盟東北支部連合会との強固なパートナーシップである。宿泊施設は地域観光の核であり、顧客満足を左右する最前線に他ならない。旅ホ連の各宿泊施設とは、単なる「販売側と受入側」という関係を超え、地域の課題を共有し、ともに解決策を見いだす「運命共同体」として歩んでいく所存だ。デジタルトランスフォーメーション（DX）による業務の効率化や、インバウンド受け入れ体制の高度化など、現場に即した連携をこれまで以上に深化させていく。

また、われわれが目指すのは、観光を通じた持続可能な地域づくり「地域交流事業」の確立である。観光消費による経済波及効果はもとより、関係人口の創出や伝統文化の継承など、地域が抱える社会的課題の解決に寄与することを目指す。自治体やDMO、地場産業の皆さまと手を取り合い、一過性ではない、10年、20年先を見据えた「選ばれ続ける東北」のグランドデザインをともに描いていきたい。

東北の復興からその先の発展へ。JTBは地域の伴走者として、情熱を持って新たな価値創造に挑戦し続ける。皆さまのよりいっそうのご指導、ご鞭撻（べんたつ）を心よりお願い申し上げる。

アジアの注目が中部に

中部

執行役員 ツーリズム事業本部 中部エリア広域代表 愛知・名古屋アジア・アジアパラ競技大会推進担当 **小島 健治氏**

中部エリアは、白川郷や富士山、伊勢神宮、立山黒部アルペンルートといった日本を代表する観光資源が凝縮された、極めてポテンシャルの高い地域だ。インバウンド需要、とりわけ欧米豪市場からの注目は顕著であり、名所を巡るだけでなく、地域の文化や暮らしに深く触れる「体験型旅行」へのニーズが高まっている。

また、デスティネーションとして人気が高まる「ジブリパーク」や、今年秋から一般開放を予定している「黒部宇奈月キャニオンルート」など、これらを組み合わせた「面」での誘客推進により、中部の良さを実感してもらえると確信している。これら多様な旅のスタイルを受け止める中部の観光基盤こそが、日本の観光立国を支える大きな原動力になりうると考えている。

こうした需要を確実に取り込むため、JTBは旅ホ連会員の皆さまとの連携をさらに深化させ、受け入れ環境整備や地域ならではのコンテンツ造成を推進していく。

特に、2026年秋に開催の「アジア競技大会およびアジアパラ競技大会」は、アジア中の注目が中部に集まる千載一遇の機会だ。大会を契機としたユニバーサルツーリズムの拡充など、多様な旅行者の受け入れ態勢を強化することでレガシーを創出し、大会前後の周遊観光や、大会後の誘客促進に向けた仕掛けを会員施設とともに強力に展開していく。

また、能登半島地震からの早期の復旧・復興は中部全体の最優先事項である。正確な情報発信により魅力を伝えていくとともに、可能な限り実際に現地を訪れることで、能登の一日も早い復興に貢献していく。

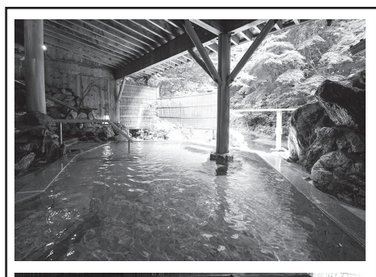
北陸新幹線の延伸効果を最大化し、誘客を加速させることも喫緊の課題だ。「黒部宇奈月キャニオンルート」は、新たな広域周遊ルートを開発していく目玉として期待が高まる。この新ルートで、北陸から信州、東海への縦の動線を確立し、広域観光につなげたい。

さらに、DXや、環境に配慮したサステナブルツーリズムの推進など、次世代の観光モデルの構築にも取り組む。JTBの持つネットワークと、旅ホ連会員パートナーの皆さま、観光事業者の皆さま、行政の皆さまの各層をつなげ、中部の広域観光拡大を目指していく。

青く輝く海、亜熱帯の緑、
色鮮やかな花々に包まれたザ・ブセナテラス。
快適さと自然との調和を併せ持つ客室や
多彩なレストラン、マリンアクティビティなど
ブセナならではのもてなしが、上質な休日をご提案いたします。

THE Busena Terrace BEACH RESORT
〒905-0026
沖縄県名護市喜瀬 1808
Tel：0980-51-1333
www.terrace.co.jp

創業天保元年　伊勢志摩国立公園 / 鳥羽温泉郷
しんの千年 戸田家
〒517-0011 三重県鳥羽市鳥羽１丁目 24-26
TEL.0599-25-2500　FAX.0599-26-2552
https://www.todaya.co.jp/



日光国立公園
湯西川温泉
本家 伴久 Honke Bankyu
TEL0288-98-0011

HonkeBankyu
SINCE 1666 本家伴久
清流沿いの露天風呂と囲炉裏会席料理
栃木県日光市湯西川749 https://www.bankyu.co.jp

千葉県天津小湊温泉「宿中屋」おもてなしの宿をめざして
玄関、ロビー、食事処、源泉半露天風呂付き客室（２室）をリニューアル。
木のぬくもりと、オーシャンビューの立地を生かしたこだわりの空間へ生まれ変わりました。
さらに食事もグレードアップ。洗練された「おもてなし」も特徴の宿中屋へようこそ。

リニューアル客室の半露天風呂

客室からの眺望はすべてオーシャンビュー

杉の木がふんわり香るロビー

浜辺の湯・浪漫の歌　宿 中屋
〒299-5503　千葉県鴨川市天津 3287　TEL.04-7094-1111 FAX.04-7094-1115